

平成21年2月24日公表

## 平成20年産茶生産量（主産県）

－ 主産県の荒茶生産量は、前年産に比べて2%増加 －

### 【調査結果の概要】

#### 1 摘採面積

主産県<sup>(注1)</sup>の茶の摘採実面積（収穫面積）は4万600haで、静岡県等が高齢化による廃園等により減少したことから前年産に比べて300ha（1%）減少した。

なお、摘採延べ面積は9万3,000haで、前年産に比べて800ha（1%）減少した。

#### 2 生葉収穫量

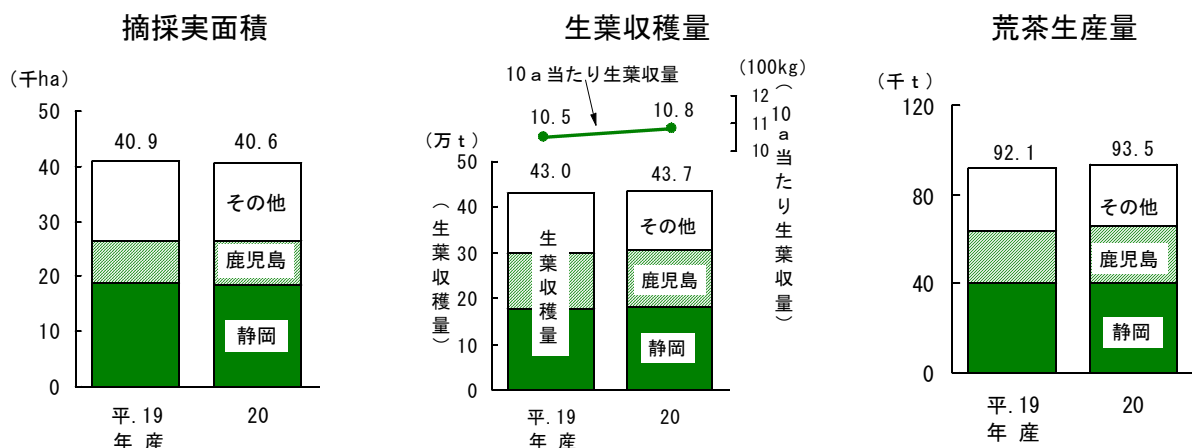
主産県の茶の生葉収穫量は43万7,000tで、鹿児島県等でおおむね天候に恵まれ生育が順調であったことにより前年産に比べて6,800t（2%）増加した。

#### 3 荒茶生産量

主産県の荒茶生産量は9万3,500tで、生葉収穫量が増加したことにより前年産に比べて1,400t（2%）増加した。

なお、全国の荒茶生産量<sup>(注2)</sup>は9万5,500tで、前年産に比べて1,400t（1%）増加した。

図1 摘採実面積、生葉収穫量及び荒茶生産量（主産県）



- 摘採面積とは、茶を栽培している面積のうち、収穫を目的として茶葉の摘採が行われた面積をいう。
- 荒茶とは、茶葉（生葉）を蒸熱、揉み操作、乾燥等の加工処理を経て製造されたもので、荒茶生産量とはその加工品の重量をいう。

注：1 本調査は主産県を対象に調査を実施しており、主産県とは、全国の荒茶生産量（平成16年産）のおおむね80%を占めるまでの上位都道府県に加えて、畑作物共済事業等を実施する都道府県である。  
2 全国の荒茶生産量は、主産県調査結果をもとに推計した。

この統計調査結果で使用している統計表は、以下のアドレスからデータとしてご利用いただけます。

【<http://www.maff.go.jp/toukei/sokuhou/data/tya2008/tya2008.xls>】

## 【関連するデータ、情報】

### ◎ 調査結果の利活用

- ・ 「食料・農業・農村基本計画」における生産努力目標の策定及び目標達成に向けた生産指導・達成状況検証のための資料
- ・ 農業災害補償制度に基づく畑作物共済事業における共済基準収量算定及び農業共済組合連合会当初評価高の審査・認定の資料

### ◎ 関連データ

#### 1 全国の茶種別荒茶生産量の推移

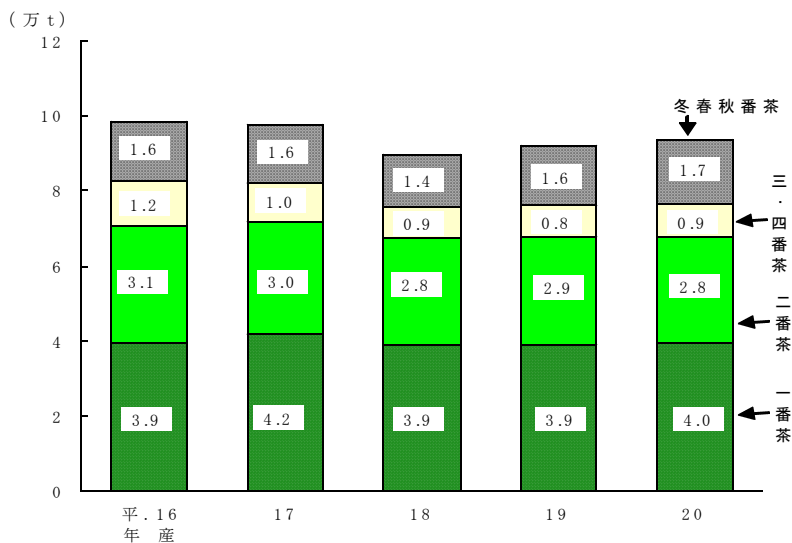
単位：t

年産	荒茶生産量							
	計	玉露	かぶせ茶	てん茶	普通せん茶	玉緑茶	番茶	その他
平成11年	88 500	236	3 920	925	65 800	3 870	12 600	1 240
12	89 300	...	...	...	...	...	...	...
13	89 800	...	...	...	...	...	...	...
14	84 200	196	3 630	1 350	63 200	3 660	11 000	1 160
15	91 900	208	3 910	1 420	67 100	3 490	14 500	1 240
16	100 700	213	3 740	1 490	70 800	3 930	19 300	1 370
17	100 000	227	4 040	1 630	70 200	3 720	18 200	1 850
18	91 800	222	3 650	1 650	64 900	3 410	16 400	1 670
19	94 100	277	3 920	1 660	65 400	3 200	17 600	1 990
20 (概数)	95 500	412	4 220	1 780	65 300	2 930	19 100	1 780

資料：農林水産省統計部『作物統計』

注：平成11年産、14年産、15年産及び16年産は全国調査結果によるものである。平成12年産、13年産、17年産、18年産、19年産及び20年産については主産県の調査結果から推計したものである。

#### 2 茶期別荒茶生産量の推移（主産県）



資料：農林水産省統計部『作物統計』

## 【調査結果】

### 1 摘採実面積（収穫面積）

主産県の茶の摘採実面積は4万600haで、前年産に比べ300ha（1%）減少した。

これは、鹿児島県等で近年の新植により摘採園地が増加したものの、静岡県等で高齢化による廃園等により減少したことによる。

### 2 10a当たり生葉収量

10a当たり生葉収量は1,080kgで前年産に比べて30kg（3%）上回った。

これは、鹿児島県等でおおむね天候に恵まれ生育が順調であったことによる。

### 3 生葉収穫量

主産県の茶の生葉収穫量は43万7,000tで、前年産に比べて6,800t（2%）増加した。

これは、摘採面積は減少したものの、10a当たり生葉収量が前年産を上回ったことによる。

### 4 荒茶生産量

主産県の荒茶生産量は9万3,500tで、生葉生産量が増加したことにより前年産に比べて1,400t（2%）増加した。

主産県の荒茶生産量を茶種別にみると、普通せん茶が約7割を占めている。

なお、全国の荒茶生産量は9万5,500tで、前年産に比べて1,400t（1%）増加した。

図2 摘採実面積及び荒茶生産量の推移（主産県）

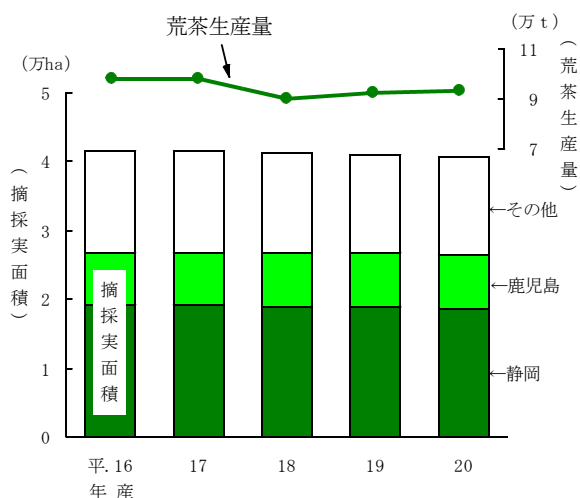


図3 茶種別荒茶生産量（主産県）

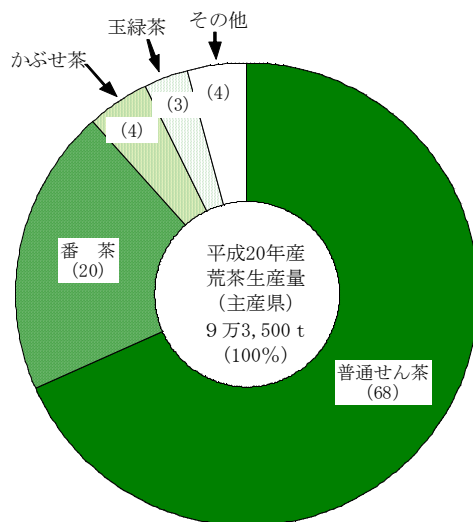


表 茶の摘採実面積、生葉収穫量及び荒茶生産量（主産県）

区分	摘採実面積	10a当たり生葉収量	生葉収穫量	荒茶生産量 (t)							
				計	玉露	かぶせ茶	てん茶	普通せん茶	玉緑茶	番茶	その他
主産県計	40 600	1 080	437 000	93 500	403	4 130	1 740	63 900	2 870	18 700	1 740
対前年差(t)	△ 300	30	6 800	1 400	132	290	120	△ 100	△ 260	1 500	△ 230
対前年産比(%)	99	103	102	102	149	108	107	100	92	109	88
全 国	...	...	...	95 500	412	4 220	1 780	65 300	2 930	19 100	1 780

注：1 全国の荒茶生産量は、主産県調査結果をもとに推計した。

また、全国の茶種別荒茶生産量は、主産県の茶種別生産量割合をもとに配分した。

2 10a当たり生葉収量とは、生葉収穫量を摘採実面積で除算して求めたものである。

# 【統計表】

## 平成20年産茶の摘採面積、生葉収穫量及び荒茶生産量

### (1) 摘採実面積及び茶期別摘採面積

都道府県	摘採実面積		摘採面積 (ha)						
			計 (延べ面積)		一番茶	二番茶	三番茶	四番茶	冬春秋番茶
	実数	前年産対比	実数	前年産対比					
主産県計	40 600	99	93 000	99	40 600	27 900	7 770	1 830	14 800
茨城	335	96	485	100	335	88	-	-	62
埼玉	954	99	1 210	93	954	243	-	-	13
岐阜	648	96	1 040	97	631	316	-	-	96
静岡	18 500	98	38 400	99	18 500	12 200	815	231	6 680
愛知	524	98	895	100	524	245	x	x	93
三重	3 010	102	6 790	96	3 010	2 110	-	-	1 670
滋賀	433	97	978	102	433	304	0	-	241
京都	1 380	101	2 920	102	1 380	939	0	-	605
奈良	696	98	1 710	97	696	614	-	-	403
高知	395	94	620	95	393	151	x	x	72
福岡	1 430	99	2 440	100	1 430	788	112	105	-
佐賀	940	99	1 820	91	940	713	96	-	71
長崎	661	100	1 110	85	661	410	21	2	12
熊本	1 380	97	2 190	96	1 380	632	146	-	34
宮崎	1 400	102	3 660	99	1 400	1 110	825	1	326
鹿児島	7 940	101	26 700	102	7 940	7 080	5 730	1 470	4 460

注：主産県とは、全国の荒茶生産量（平成16年産）のおおむね80%を占めるまでの上位都道府県に加えて、畑作物共済事業等を実施する都道府県である（以下の各統計表において同じ）。

### (2) 10a当たり生葉収量及び茶期別生葉収穫量

都道府県	10a当たり 生葉収量		生葉収量 (t)						
			計		一番茶	二番茶	三番茶	四番茶	冬春秋番茶
	実数	前年産対比	実数	前年産対比					
主産県計	1 080	103	437 000	102	194 500	134 700	35 600	8 040	64 400
茨城	465	108	1 560	103	1 020	327	-	-	213
埼玉	443	99	4 230	98	3 240	922	-	-	61
岐阜	589	112	3 820	108	2 260	1 130	-	-	423
静岡	975	102	180 400	100	81 600	58 800	3 360	977	35 700
愛知	989	110	5 180	108	3 170	1 360	x	x	483
三重	1 150	98	34 700	100	17 800	10 500	-	-	6 460
滋賀	878	98	3 800	94	1 810	1 320	1	-	668
京都	951	97	13 100	98	7 020	4 240	1	-	1 870
奈良	1 430	92	9 980	91	5 020	3 310	-	-	1 650
高知	474	107	1 870	101	1 120	505	x	x	232
福岡	809	100	11 600	100	6 800	3 930	392	468	-
佐賀	859	95	8 070	94	4 440	3 040	412	-	178
長崎	626	88	4 140	88	2 650	1 380	64	5	41
熊本	599	99	8 290	97	5 000	2 560	616	-	110
宮崎	1 340	98	18 800	100	7 770	6 000	4 030	4	998
鹿児島	1 610	106	127 500	107	43 800	35 400	26 600	6 490	15 300

注：10a当たり生葉収量とは、生葉収量を摘採実面積で除算して求めたものである。

(3) 茶期別荒茶生産量

都道府県	荒茶生産量 (t)							
	計		一番茶	二番茶	三番茶	四番茶	冬春秋番茶	
	実数	前年産比 %						
全 国	95 500	101	...	...	...	...	...	...
うち、主産県計	93 500	102	39 600	28 000	7 360	1 730	16 800	
茨 城	349	104	216	75	-	-	58	
埼 玉	914	99	700	194	-	-	20	
岐 阜	847	107	484	247	-	-	116	
静 岡	40 100	101	17 100	12 500	780	232	9 480	
愛 知	1 070	111	638	279	x	x	111	
三 重	7 490	98	3 480	2 380	-	-	1 620	
滋 賀	789	90	357	265	0	-	167	
京 都	2 770	93	1 420	837	0	-	517	
奈 良	2 360	93	1 190	693	-	-	486	
高 知	404	100	238	102	x	x	61	
福 岡	2 330	100	1 340	807	83	104	-	
佐 賀	1 780	92	955	682	98	-	41	
長 崎	766	88	489	253	11	1	12	
熊 本	1 680	97	1 010	520	129	-	25	
宮 崎	3 850	101	1 570	1 210	826	1	240	
鹿 児 島	26 000	108	8 430	6 980	5 420	1 360	3 830	

注： 全国の荒茶生産量は、主産県調査結果をもとに推計した（以下の各統計表において同じ）。

(4) 茶種別荒茶生産量

都道府県	荒茶生産量 (t)							
	計	玉 露	かぶせ茶	てん茶	普通せん茶	玉緑茶	番 茶	その他
全 国	95 500	412	4 220	1 780	65 300	2 930	19 100	1 780
うち、主産県計	93 500	403	4 130	1 740	63 900	2 870	18 700	1 740
茨 城	349	-	14	-	270	-	44	21
埼 玉	914	-	0	x	902	-	3	x
岐 阜	847	x	x	70	724	-	25	x
静 岡	40 100	12	132	211	29 800	248	9 060	599
愛 知	1 070	3	x	500	435	-	43	75
三 重	7 490	132	1 660	x	3 730	-	913	x
滋 賀	789	0	46	7	521	-	214	1
京 都	2 770	140	170	791	973	-	631	69
奈 良	2 360	0	410	43	979	-	927	5
高 知	404	x	-	-	328	x	74	x
福 岡	2 330	99	476	4	1 710	-	42	-
佐 賀	1 780	1	447	-	454	840	31	3
長 崎	766	-	309	-	12	337	108	-
熊 本	1 680	16	40	-	844	774	4	-
宮 崎	3 850	-	26	x	3 120	399	289	5
鹿 児 島	26 000	-	362	-	19 100	266	6 310	9

注： 1 全国の茶種別荒茶生産量は、主産県の茶種別生産量割合をもとに配分した。

2 三重県の玉露の増加については、主に茶樹の上部及び側面を寒冷紗等の被覆資材でほぼ完全に日光を遮り、18日以上直接被覆する方法により栽培されたものを含むことによる。

## 【調査の概要】

### 1 調査の目的

茶の生産に関する実態を明らかにすることにより、「食料・農業・農村基本計画」における生産努力目標の策定及び達成状況の確認のための資料とするとともに、茶に関する生産対策、需給対策等各種施策の企画立案の資料とすることを目的としている。

### 2 調査の対象

#### (1) 調査の範囲

全国の荒茶生産量（平成16年産）のおおむね80%を占めるまでの上位都道府県、畑作物共済事業及び農業生産総合対策事業を実施する都道府県

#### (2) 調査対象の選定

標本荒茶工場

#### (3) 調査対象数

	母集団荒茶工場数	標本数		回収数		集計対象数
			抽出率		回収率	
茶	工場	工場	%	工場	%	工場
	5,977	1,063	17.8	989	93.0	982

### 3 調査事項

摘採面積、生葉収穫（処理）量、茶種別荒茶生産量

### 4 調査期日

平成20年12月1日現在

### 5 調査方法

標本荒茶工場に対する往復郵送調査

### 6 集計方法

摘採面積、生葉収穫量及び荒茶生産量について階層別に推計を行い算出している。

主産県計は、主産県の結果を積み上げ集計した。

荒茶生産量の全国値は主産県調査結果と主産県以外の推計値を合計した。主産県以外の推計値については平成20年11月に公表した「平成20年果樹及び茶栽培面積（7月15日現在）」の茶の栽培面積、全国調査年（平成16年産）の結果及び本年産の主産県結果を基に推計している。

### 7 調査結果の精度（標準誤差率）

本調査における主産県の平成20年産荒茶生産量実績精度（標準誤差率）は、荒茶生産量を指標として1.30%である。

標準誤差率（%）＝標準誤差÷推定値×100

### 8 用語の解説

(1) **玉露**とは、一番茶の摘採期前に茶樹の上部及び側面をよしず棚等に藁や寒冷紗等の被覆資材で20日前後覆い、ほぼ完全に日光を遮った覆下茶園より摘採した茶葉（新芽）を蒸熱、揉み操作、乾燥させ製造したものをいう。

(2) **かぶせ茶**とは、一番茶の摘採期前に7日前後、茶樹の上部を寒冷紗等で簡易な遮光をした覆下茶園より摘採した茶葉を蒸熱、揉み操作、乾燥させ製造したものをいう。

(3) **てん茶**とは、玉露と同様に、茶樹を完全に覆った茶園から摘採した新芽を蒸熱し、揉まないで乾燥した荒茶をいう。このてん茶をうす（臼）などで挽いて粉末にしたものが茶の湯に使うまっ茶である。

- (4) **普通せん茶**とは、各茶期に、自然光下で栽培した茶樹の新芽を摘採し、その生葉を蒸熱、揉み操作、乾燥して製造した荒茶をいう。
- (5) **玉緑茶**とは、蒸熱又は釜炒りし、強く揉まず、乾燥して製造した荒茶で、まが玉形やこれに準ずる形状をしたものをいう。
- (6) **番茶**とは、硬くなった新芽(葉)や冬茶期後に整枝の目的で刈り取った茶葉を原料に、蒸熱、揉み操作、乾燥させ製造した荒茶をいい、番茶を強火で焙じ、焦香をつけたほうじ茶を含む。
- (7) **その他**とは、食品加工用茶、紅茶等である。

## 9 茶期区分

全国的な茶期区分は、次のとおりである。

茶期別	区 分	茶期別	区 分
一番茶	3月10日 ～ 5月31日	冬春秋番茶	
二番茶	6月1日 ～ 7月31日	冬春番茶	1月1日 ～ 3月9日
三番茶	8月1日 ～ 9月10日	秋冬番茶	10月21日 ～ 12月31日
四番茶	9月11日 ～ 10月20日		

なお、3月10日以降であっても整園の目的を兼ねて摘採し、荒茶に加工したものは冬春秋番茶に含めた。

## 10 統計表の見方

- (1) 統計数値については、下記の方法によって四捨五入しており、合計と内訳の計が一致しないことがある

原 数		6けた (10万)	5けた (万)	4けた (1000)	3けた以下 (100)
四捨五入するけた数(下から)		2 けた		1 けた	四捨五入しない
例	四捨五入する前(原数)	123 456	12 345	1 234	123
	四捨五入した後(統計数値)	123 500	12 300	1 230	123

- (2) 表中に用いた記号は以下のとおりである。

「—」: 事実のないもの

「…」: 事実不詳又は調査を欠くもの

「0」: 単位に満たないもの(例: 0.4ha→0ha)

「△」: 減少したもの

「x」: 個人、法人又はその他の団体の個々の秘密に属する事項を秘匿するため、統計数値を公表しないもの

- (3) 秘匿方法について

本統計表において、秘匿箇所が1箇所の場合は、全体からの差し引きによって推定できるため、秘匿箇所を複数箇所にして「x」表示している。

なお、(1)により四捨五入している場合は、差し引きによっても推定できないため、秘匿箇所のみ「x」表示としている場合もある。

## 11 その他

この資料の数値は概数であり、確定値は平成21年10月刊行予定の『作物統計』に掲載する。

## 【ホームページ掲載案内】

- この統計調査結果は、農林水産省ホームページ中の統計情報に掲載しています。  
【<http://www.maff.go.jp/j/tokei/>】  
分野別分類は「作付面積・生産量、家畜の頭数など」、品目別分類は「工芸農作物（さとうきび・茶）」に分類しています。
- 本統計の累年データは、農林水産省ホームページ中の農林水産統計情報総合データベースに掲載しています。  
【<http://www.tdb.maff.go.jp/toukei/toukei>】

## 【関連リンク】

農林水産施策関係ページ：農林水産省>基本政策

<http://www.maff.go.jp/j/kanbo/>

食料政策関係ページ：農林水産省>食料

<http://www.maff.go.jp/j/soushoku/>

農業生産振興関係ページ：農林水産省>生産

<http://www.maff.go.jp/j/seisan/>

### — 問い合わせ先 —

#### ◎本統計調査結果について

農林水産省 大臣官房 統計部

生産流通消費統計課 普通作物統計班

電 話：03(3502)5687

#### ◎農林水産統計全般について

農林水産省 大臣官房 統計部

統計企画課 広報普及班

電 話：03(6744)2037